

長い戦争が過ぎ去った村にようやく新しい息吹が生まれる。そしてそれは女たちのボランティア活動から始まった。



クローンの素顔

—ベトナムの村の女たち—



●協力

国連人口基金 (UNFPA)
国際家族計画連盟 (IPPF)
日本政府・外務省
在ベトナム日本大使館
ベトナム政府・保健省
ロンアン省人民委員会
ロンアン省衛生局
ベンルック県人民委員会
タンブー村人民委員会

●企画 ジョイセフ (財団法人 家族計画国際協力財団)

●製作 株式会社 桜映画社

16ミリ カラー・39分 250,000円



クーロンの素顔

—ベトナムの村の女たち—

ベトナム南部に肥沃なデルタを産むメコン川。この川の九つの支流が海に向かう姿を、九つの頭をもった龍に例えて、九龍（クーロン）とよぶ。



(戦後のベトナムでは、いったい何が起きているのだろうか)

6700万人の人口が、日本から九州を除いた程の広さの国土に暮らす東南アジアの大国ベトナム。第一次インドシナ戦争、そしてベトナム戦争で超大国と伍して戦い、1975年のサイゴン陥落によって南北ベトナムの統一を果たした民族である。その後、社会主義国家として経済機構や制度の統一を目指してきたが、長い戦争で疲弊した国土と混乱から立直ることは至難であった。新たに中越戦争、カンボジア侵攻によって国際的な孤立を深めたこともあり、主要な産業である農業は停滞し、人々は困難な生活を強いられてきた。しかし今、冷戦の終息とともにベトナムは変わろうとしている。

ベトナムの村の人はどのような暮らしぶりをしているか？この映画のロケ隊は今まで知らされることの少なかった農村に深く入りこみ、人々の素顔の生活取材した。そこでは、村の女性たちによるボランティア活動が展開されていた。そして久しく停滞していた村の空気が少しずつ変わろうとしていた。

日本と日本人は今、外国との関わり合い方を問われている。遠い国の人々の喜びや苦しみ、そして悲しみを身近に分け持てるようになりたいと思う。それにはまず知ることから始まる。この地球に共に生きている人々のことを知り理解を深める一助としてこの映画を見てほしい。

(ベトナム南部ロンアン省ベンルク県タンブー村)

メコン川支流一川沿岸の村。村人の足となるのは小舟とオール。母なる河と共に生きる村の生活…乾期に河を遡ってくる海水による塩害のため、飲み水を確保することすら必死である。大地は荒れ、村人が食べていくのがやっとの米しかとれない。貧しい農村である。

しかし、ベトナム戦争の激戦地でもあったこの村に、今新しい風が吹き始め、人々は厳しい自然環境と貧しさの中から立ち上がろうとしている。

その一つの兆候…村の女達によって組織されている保健ボランティア達の活動。映画ではそのボランティア達の内から、9人の子供を持つシンと、戦争で夫や家族を失い、残された一人息子と農業に打ち込むバの生き方と活動を追う。彼女達の活動は地域の女達の共感を呼び、村に活力をもたらした。今なら何かが出来る。この兆しを敏感に感じた若い村長は村人に呼び掛ける。「戦争で失われたあの橋を力を合わせてもう一度架けよう。」資金不足は人海戦術で補う。婦人会でも寄付金集めを始めた。橋につながる道造りも村人総出で行う。

村人の目指す未来への道のりは険しく遠い。しかし一歩一歩と歩き始めた村がここにある。

[スタッフ]

プロデューサー 国井長次郎 撮影 牛島 幸男
村山 英治 音楽 杉田 一夫
脚本・監督 山下 秀雄 解説 高田 敏江



●製作

株式会社 桜映画社

〒151 東京都渋谷区代々木1-57-1 代々木センタービル6階
TEL 03(3320)6311 FAX 03(3320)7666